

ビキニデーアピール

1954年3月1日の南太平洋・ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験から68年を迎えた。第五福竜丸をはじめとする多くの漁船が被曝し、その中で久保山愛吉さんが原爆症で亡くなった。ヒロシマ・ナガサキに続き、三度「核」によって命が奪われた。

ビキニ事件を契機に、ヒロシマ・ナガサキの実態が明らかになる中で、原水爆禁止の声が国内外に広がり、核保有国を包囲してきました。そしてついに核の非人道性を認め、「核兵器禁止条約」が昨年発効した。その前文では、「核戦争が全人類に惨害をもたらすものであり、したがって、このような戦争の危険を回避するためにあらゆる努力を払う」という締約国の誓いが述べられ、世界は核兵器廃絶へ大きな一歩を踏み出した。

しかしいま、ロシアのプーチン大統領によってロシア軍がウクライナに侵攻し、世界がかかっていないほどに核戦争の危機に見舞われている。プーチン大統領は、軍事進攻する中で、核兵器使用を公然とほめかし、世界を震撼させている。今年1月に5核兵器国のすべての首脳が「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならない」と共同声明を出したにもかかわらず、核を弄ぶ態度は許されない。

ウクライナはロシアを攻撃する意図はないと繰り返し表明していたが、プーチン大統領は「自衛」を口実にウクライナを侵攻し、攻撃を正当化しようとしている。これは、岸田政権が主張している「敵基地攻撃論」にも通ずるもので、危険な論理である。これまで多くの戦争は「自衛」の名の下で引き起こされてきた。それが無辜の市民の犠牲を強いてきたことは歴史が証明している。

また、ウクライナには15基の原発があり、開戦前の2月23日時点で13基の原発が稼働中だった。ウクライナ政府によれば、24日、戦闘の末、ロシア軍がチェルノブイリ原発を占拠し、職員が拘束されたという。大量の放射性物質を抱えるチェルノブイリ原発での戦闘も問題だが、他の稼働中の原発や原子力施設の安全も懸念される。戦火によって原子力施設が攻撃や事故、さらに職員の退避やボイコットなど想定外のことが起き、原発や原子力施設が制御できない事態に至ることが心配される。戦火の中では、事故の収束は困難となる。再びウクライナを放射能で苦しめてはならない。原発のある国への侵略行動は、核兵器使用と同様、世界を破滅に導くものだ。私たち日本にも多くの原発が稼働している。周辺諸国と武力事態が発生すれば、ウクライナと同じような事態になることを忘れてはならない。

被災68周年ビキニ・デーを迎え、あらためて核兵器と原発の廃絶、そして平和は、私たちの喫緊課題である。「核と人類は共存できない」とする原水禁の立場をあらためて確認し、具体的な政策や行動を作り上げていく必要がある。そして戦火の中にあるウクライナからロシア軍の即時撤退と対話の窓口を設けることを強く求める。

2022年3月1日

被災68周年ビキニデー集会 参加者一同